

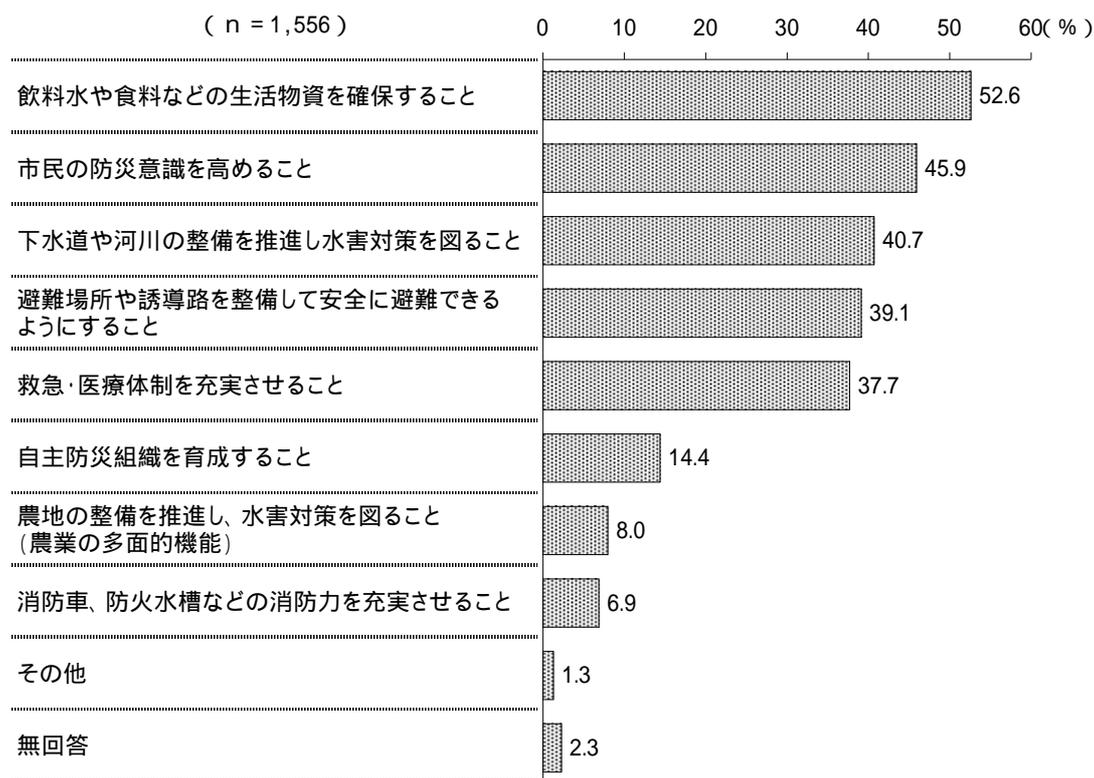
6 . 地域社会と市民生活

(1) 防災対策として必要な施策

「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」が52.6%

問39 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

図表 6 - 1 - 1

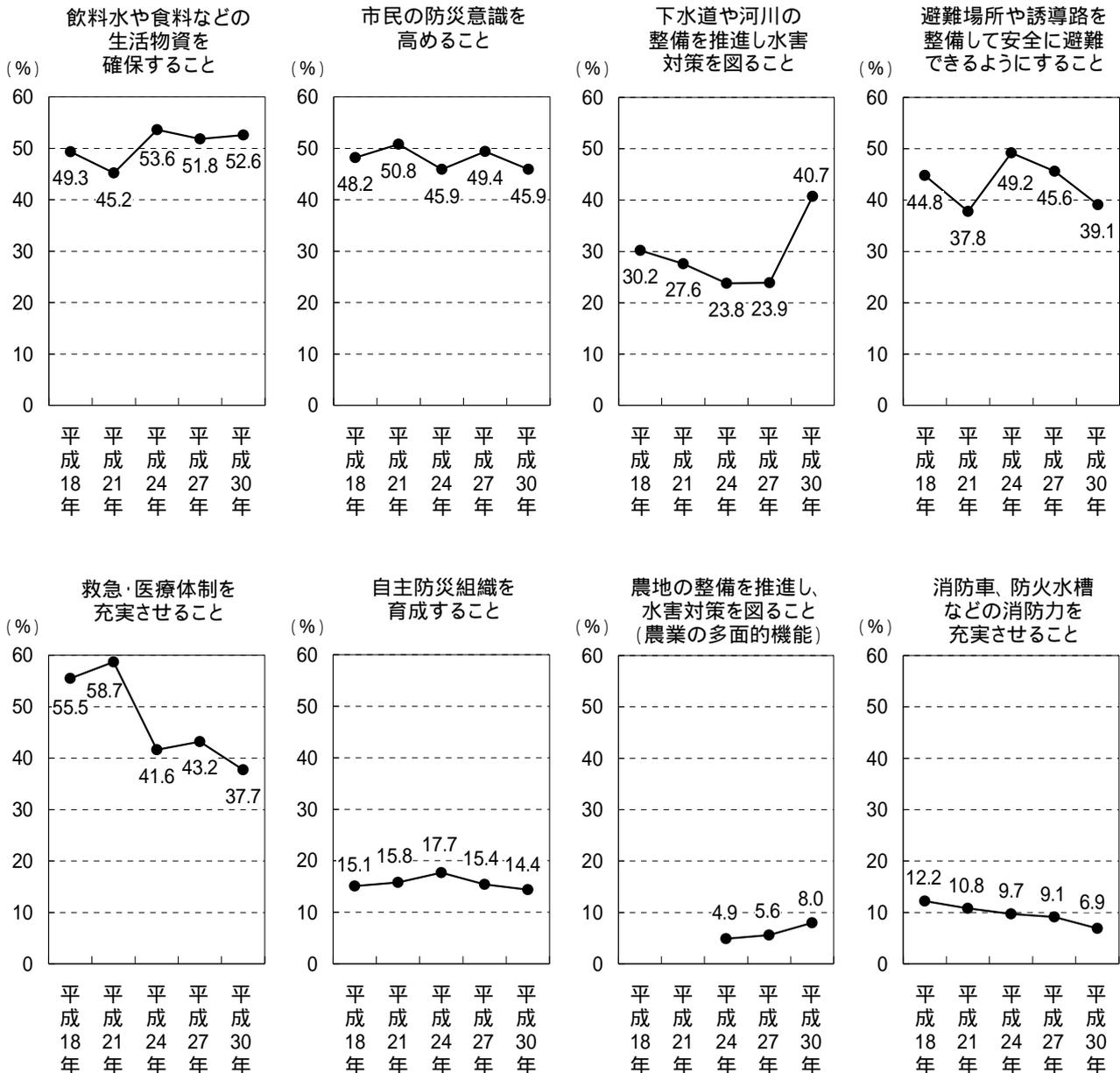


防災対策として必要な施策をたずねたところ、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」(52.6%)が5割を超えて最も多くなっている。以下、「市民の防災意識を高めること」(45.9%)、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」(40.7%)、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」(39.1%)などの順となっている。(図表6-1-1)

時系列でみると、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は前回調査より16.8ポイント増加している。一方、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は前回調査より6.5ポイント、「救急・医療体制を充実させること」は前回調査より5.5ポイント、「市民の防災意識を高めること」は前回調査より3.5ポイント、それぞれ減少している。

(図表 6 - 1 - 2)

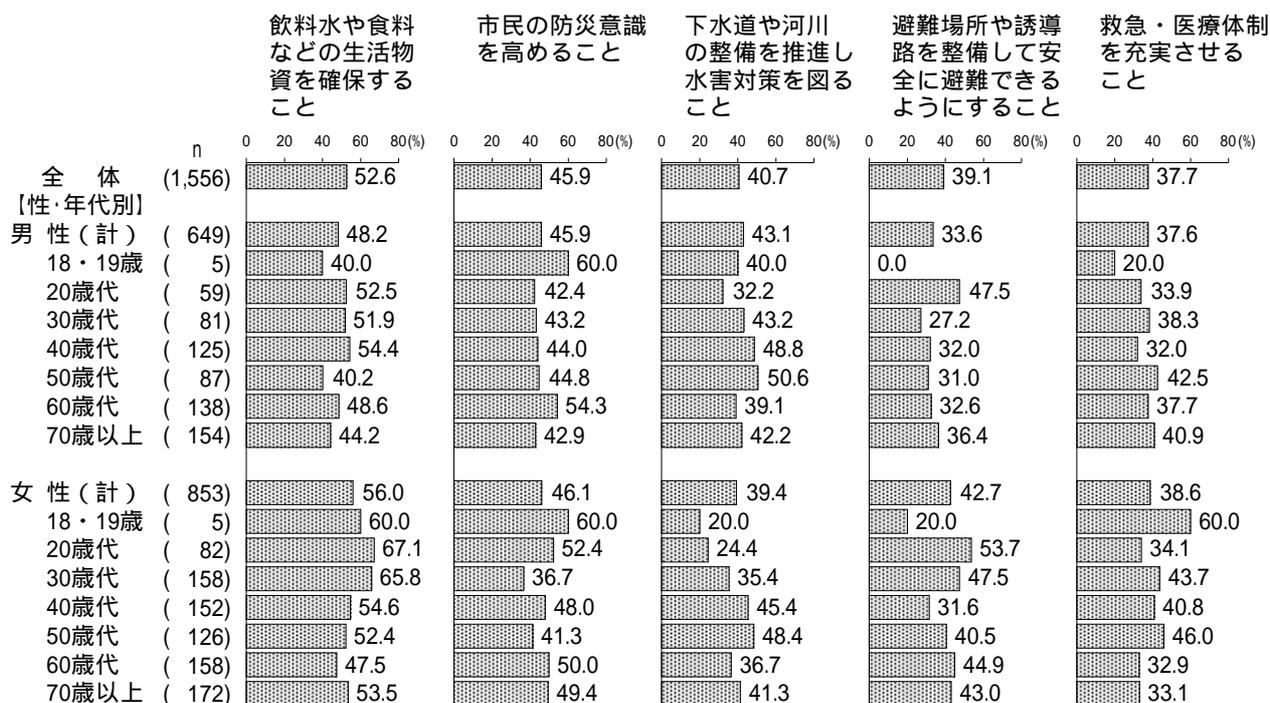
図表 6 - 1 - 2 時系列 - 防災対策として必要な施策



(注) 「農地の整備を推進し、水害対策を図ること（農業の多面的機能）」は、平成24年から追加された選択肢。

上位5項目を性・年代別にみると、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」は女性の20歳代と30歳代で6割台と多くなっている。「市民の防災意識を高めること」は男性60歳代で5割半ばと多くなっている。「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は女性20歳代で5割を超えて多くなっている。(図表6-1-3)

図表6-1-3 性・年代別(上位5項目) - 防災対策として必要な施策

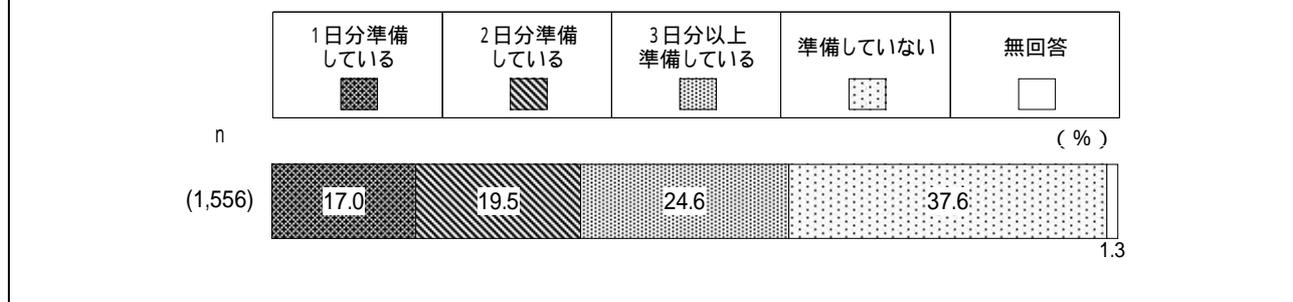


(2) 水・食料の備蓄量

「3日以上準備している」が24.6%

問40 東日本大震災以降、個人で3日以上の水や食料の備蓄が必要といわれておりますが、あなたは何日分準備していますか。(は1つ)

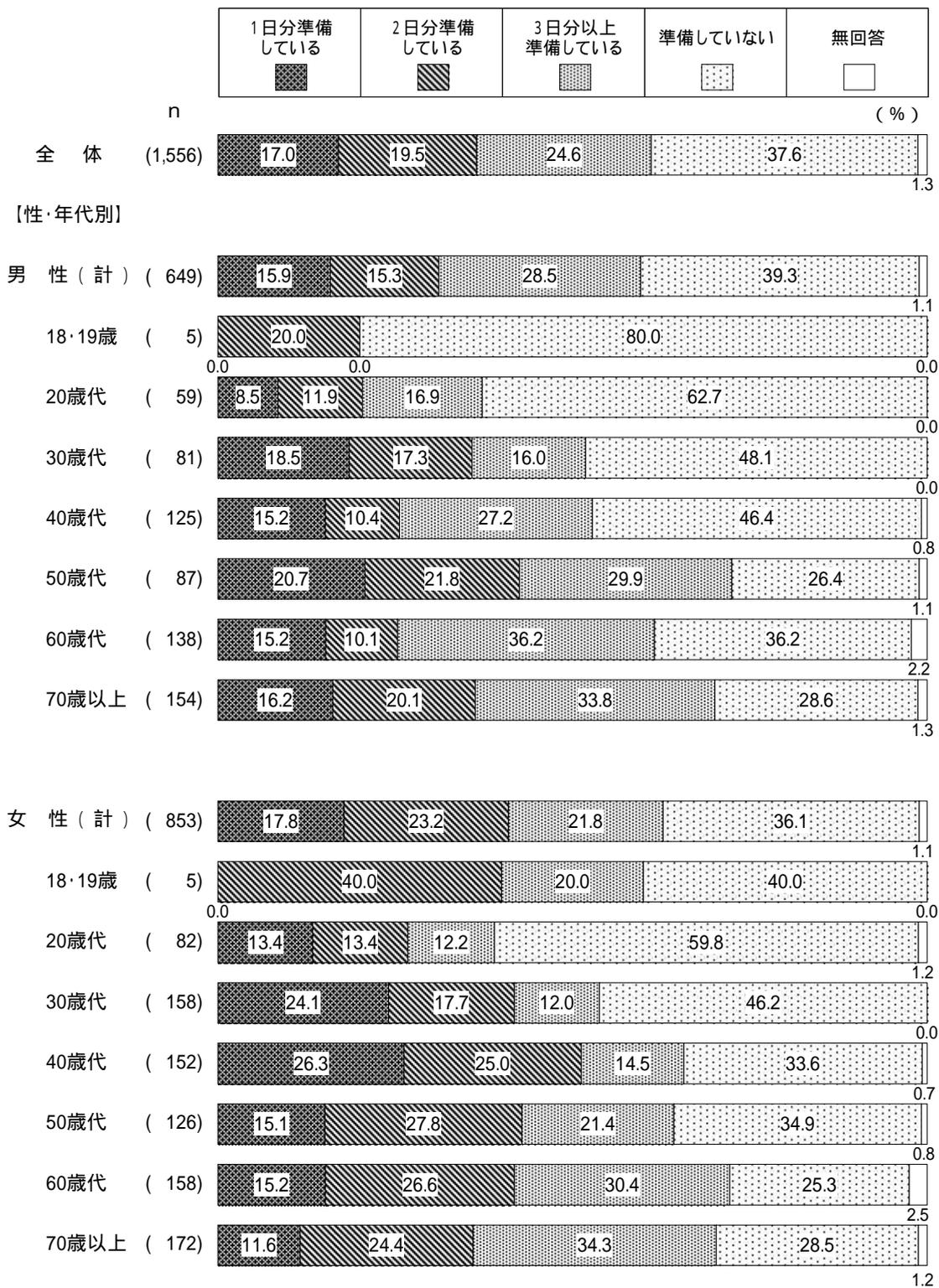
図表6-2-1



水・食料の備蓄量をたずねたところ、「3日以上準備している」(24.6%)が2割半ばとなっている。「2日分準備している」(19.5%)は2割、「1日分準備している」(17.0%)は2割近くとなっている。一方、「準備していない」(37.6%)は4割近くとなっている。(図表6-2-1)

性・年代別にみると、「1日分準備している」は女性の30歳代と40歳代で2割半ばと多くなっている。「3日以上準備している」は男女ともに60歳代と70歳以上で3割台と多くなっている。一方、「準備していない」は男女ともにおおむね年代が低くなるにつれて多く、男性20歳代で6割を超え、女性20歳代で6割となっている。（図表6-2-2）

図表6-2-2 性・年代別 - 水・食料の備蓄量

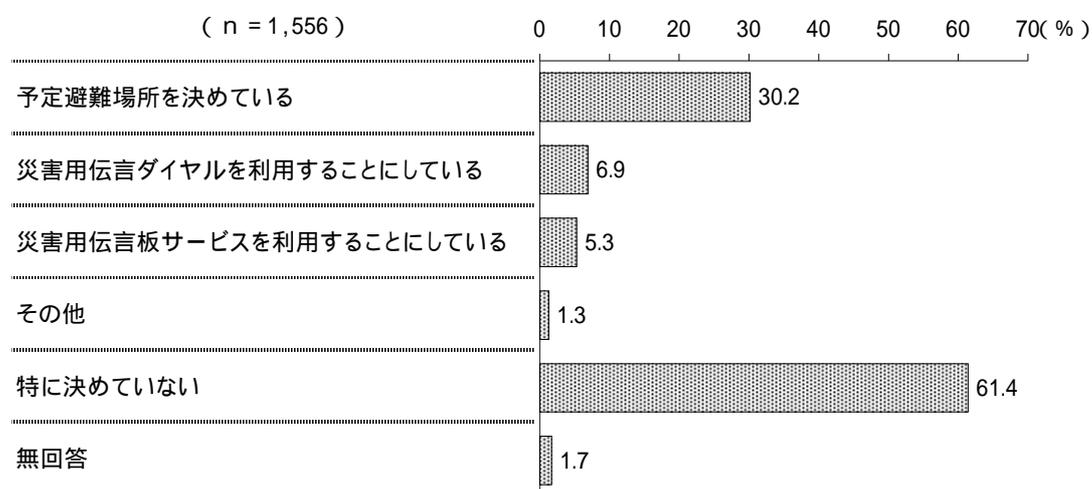


(3) 家族等との安否確認手段

「予定避難場所を決めている」が30.2%

問41 あなたは、家族等との安否確認手段を決めていますか。(はいいくつでも)

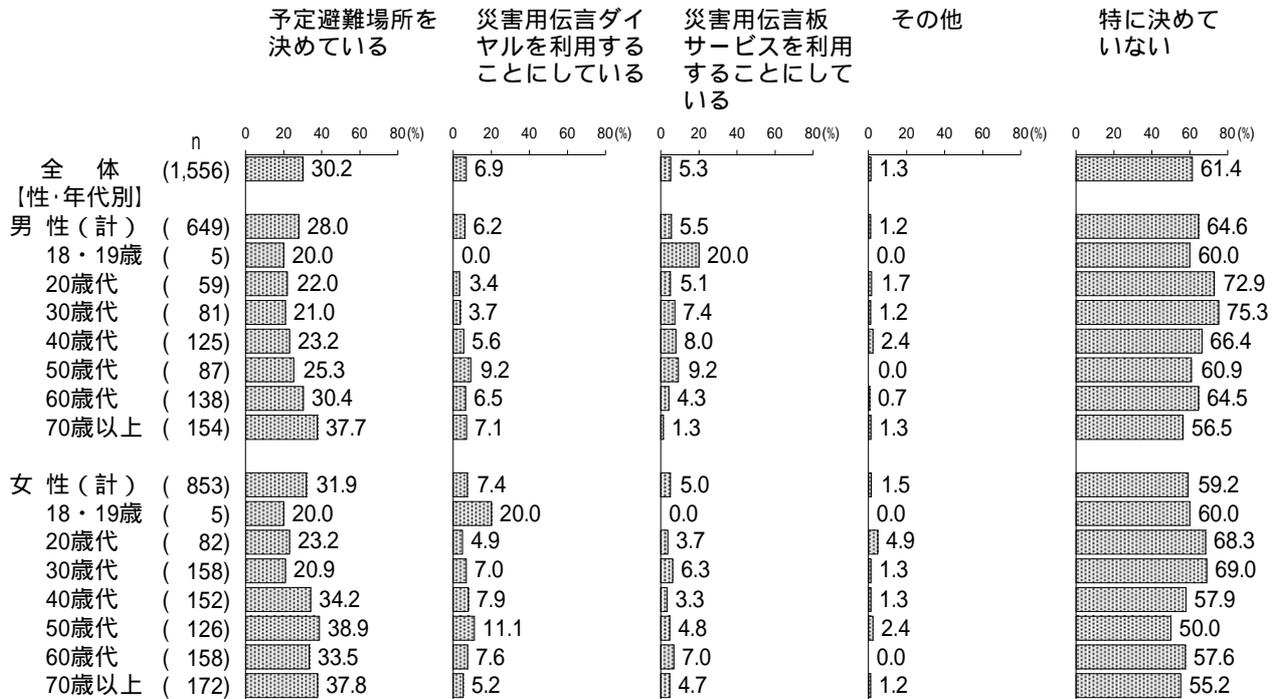
図表 6 - 3 - 1



家族等との安否確認手段を決めているかたずねたところ、「予定避難場所を決めている」(30.2%)が3割で最も多くなっている。以下、「災害用伝言ダイヤルを利用することになっている」(6.9%)、「災害用伝言板サービスを利用することになっている」(5.3%)などの順となっている。一方、「特に決めていない」(61.4%)は6割を超えている。(図表 6 - 3 - 1)

性・年代別にみると、「予定避難場所を決めている」は女性の50歳代と70歳以上、男性70歳以上で4割近くと多くなっている。一方、「特に決めていない」は男性の20歳代と30歳代で7割台と多くなっている。（図表6-3-2）

図表6-3-2 性・年代別 - 家族等との安否確認手段

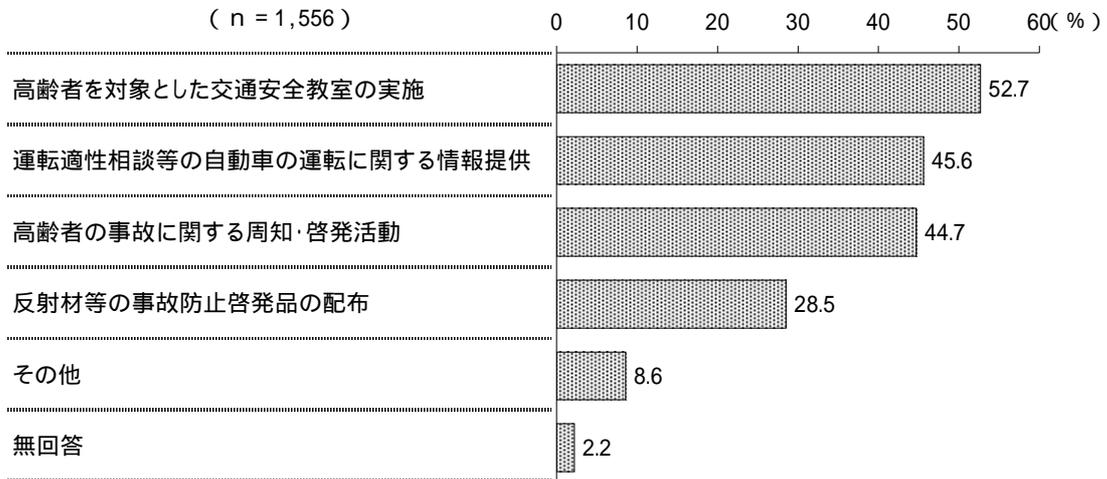


(4) 高齢者の交通事故防止に必要なこと

「高齢者を対象とした交通安全教室の実施」が52.7%

問42 あなたは、高齢者の交通事故防止に何が必要だと思いますか。(はいいくつでも)

図表 6 - 4 - 1



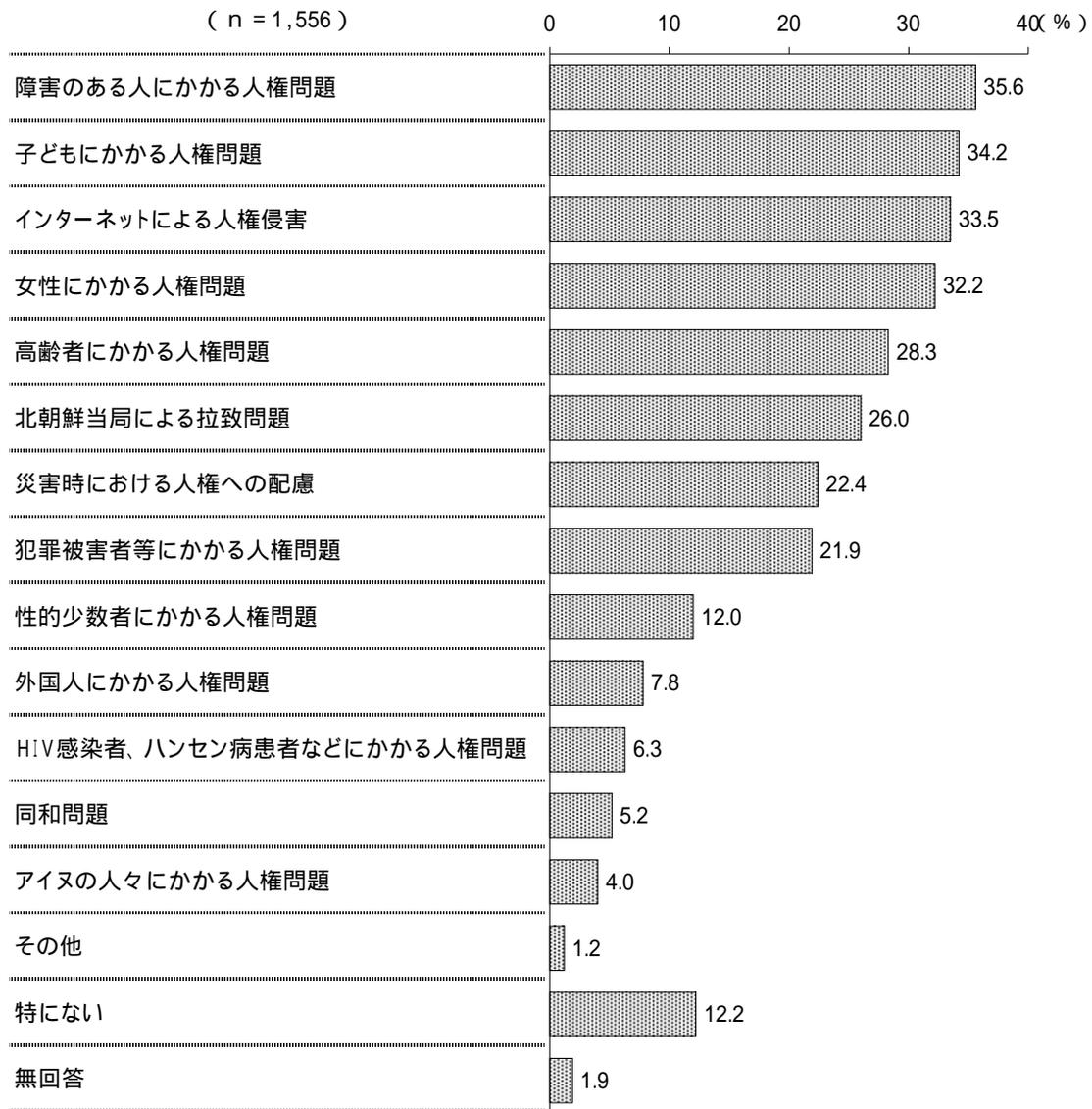
高齢者の交通事故防止に必要なことをたずねたところ、「高齢者を対象とした交通安全教室の実施」(52.7%)が5割を超えて最も多くなっている。以下、「運転適性相談等の自動車の運転に関する情報提供」(45.6%)、「高齢者の事故に関する周知・啓発活動」(44.7%)、「反射材等の事故防止啓発品の配布」(28.5%)などの順となっている。(図表6-4-1)

(5) 関心のある人権問題

「障害のある人にかかる人権問題」が35.6%、「子どもにかかる人権問題」が34.2%

問43 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあるものはどのようなものですか。(はいくつでも)

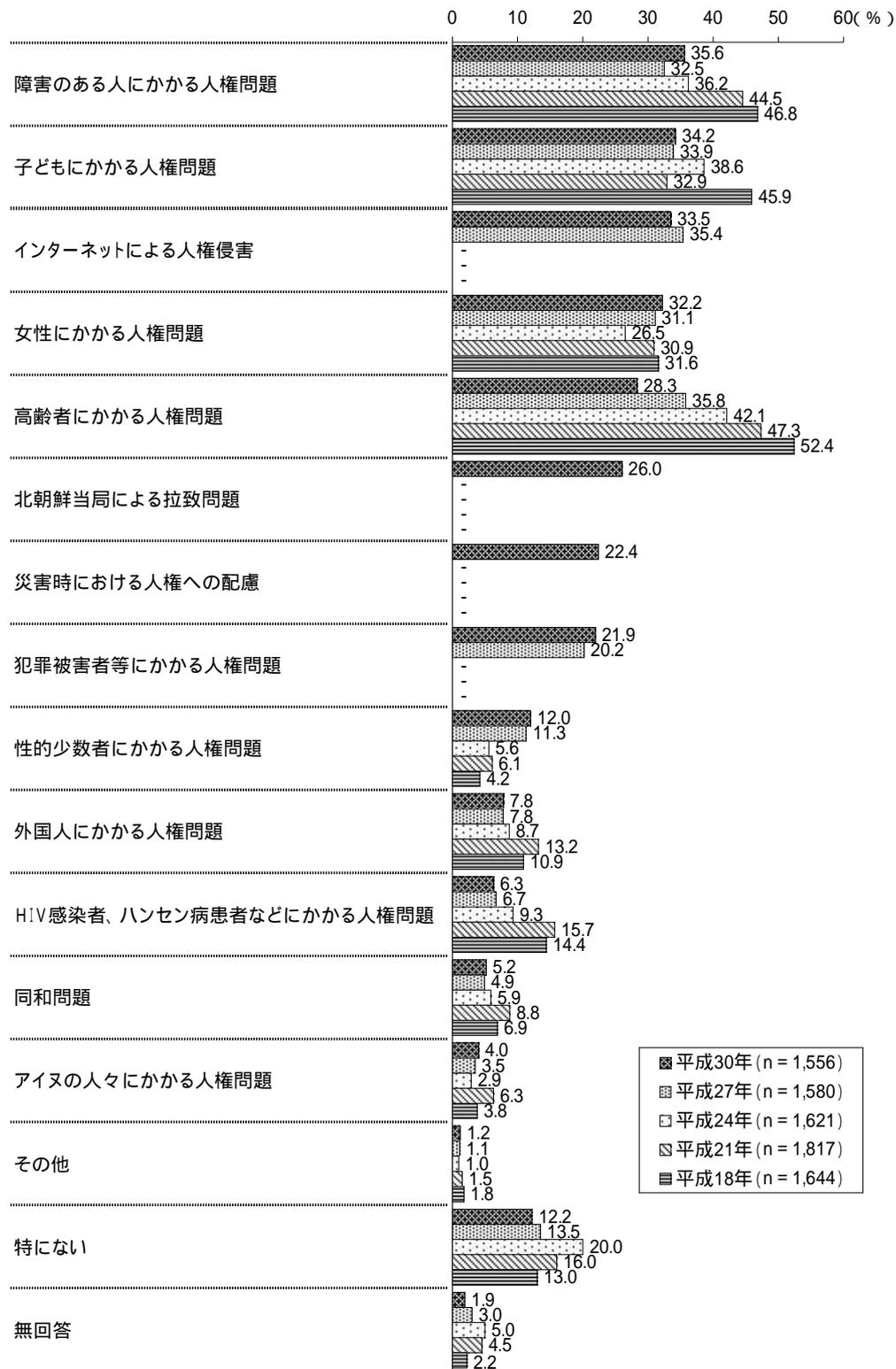
図表 6 - 5 - 1



関心のある人権問題をたずねたところ、「障害のある人にかかる人権問題」(35.6%)と「子どもにかかる人権問題」(34.2%)が3割半ばで多くなっている。以下、「インターネットによる人権侵害」(33.5%)、「女性にかかる人権問題」(32.2%)、「高齢者にかかる人権問題」(28.3%)などの順となっている。(図表 6 - 5 - 1)

時系列でみると、「障害のある人にかかる人権問題」は前回調査より3.1ポイント増加している。一方、「高齢者にかかる人権問題」は平成18年以降減少傾向となっており、前回調査より7.5ポイント減少している。（図表6-5-2）

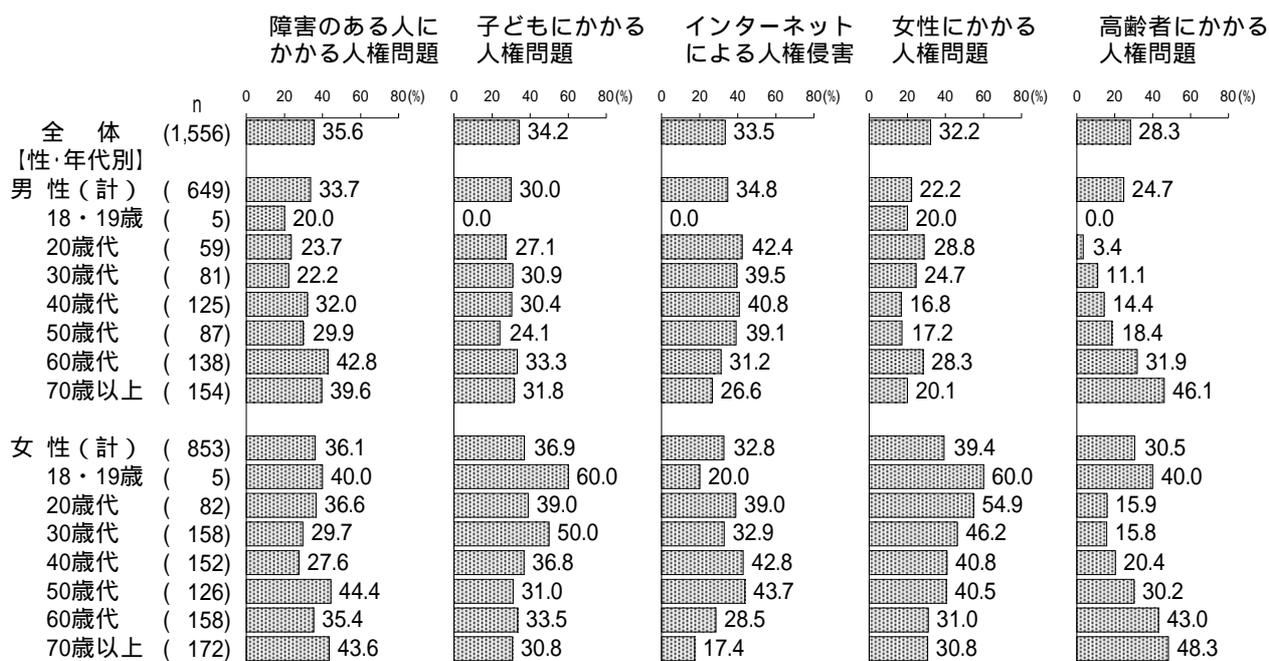
図表6-5-2 時系列 - 関心のある人権問題



(注1) 「北朝鮮当局による拉致問題」、「災害時における人権への配慮」は、平成30年から追加された選択肢。
 (注2) 「インターネットによる人権侵害」、「犯罪被害者等にかかる人権問題」は、平成27年から追加された選択肢。

上位5項目を性・年代別にみると、「子どもにかかる人権問題」は女性30歳代で5割と多くなっている。「女性にかかる人権問題」は女性20歳代で5割半ばと多くなっている。「高齢者にかかる人権問題」は男女ともにおおむね年代が高くなるにつれて多く、女性の60歳代と70歳以上、男性70歳以上で4割台となっている。(図表6-5-3)

図表6-5-3 性・年代別(上位5項目) - 関心のある人権問題

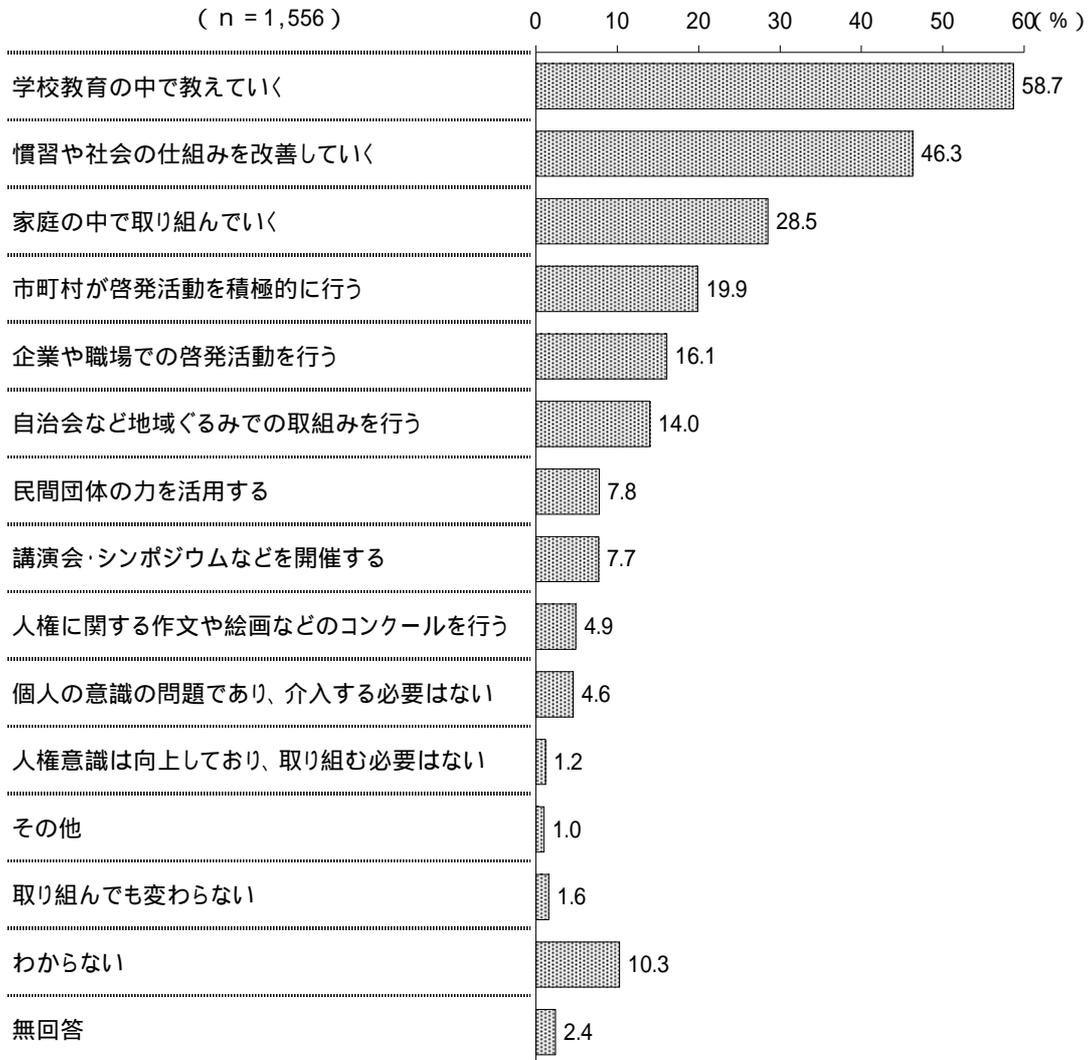


(6) 人権意識を高めていくために必要な取組

「学校教育の中で教えていく」が58.7%

問44 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めていくためには、今後どのような取組が必要だとお考えですか。(はいいくつでも)

図表 6 - 6 - 1

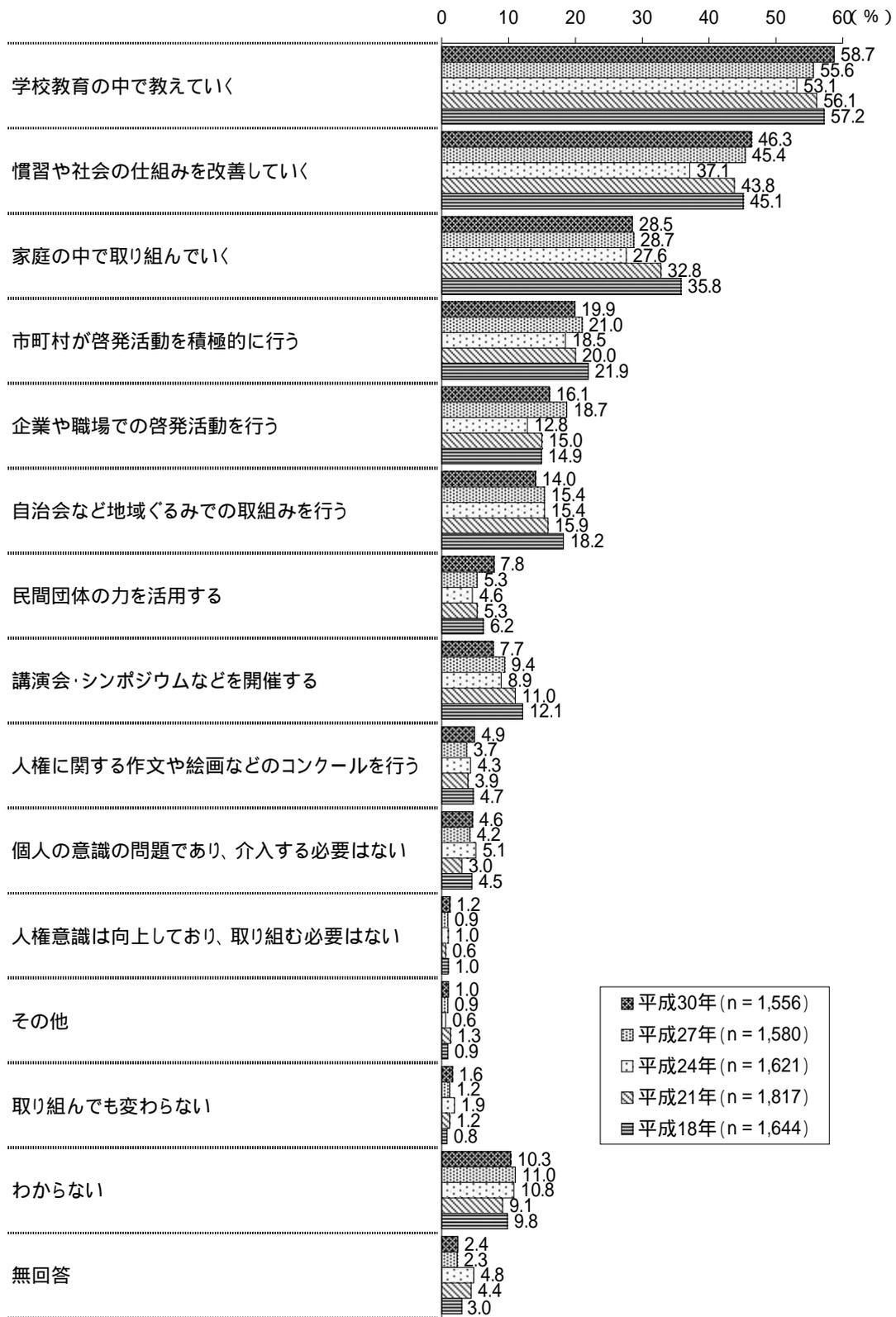


人権意識を高めていくために必要な取組をたずねたところ、「学校教育の中で教えていく」(58.7%)が6割近くで最も多くなっている。以下、「慣習や社会の仕組みを改善していく」(46.3%)、「家庭の中で取り組んでいく」(28.5%)、「市町村が啓発活動を積極的に行う」(19.9%)などの順となっている。(図表 6 - 6 - 1)

時系列でみると、「学校教育の中で教えていく」は前回調査より3.1ポイント増加している。

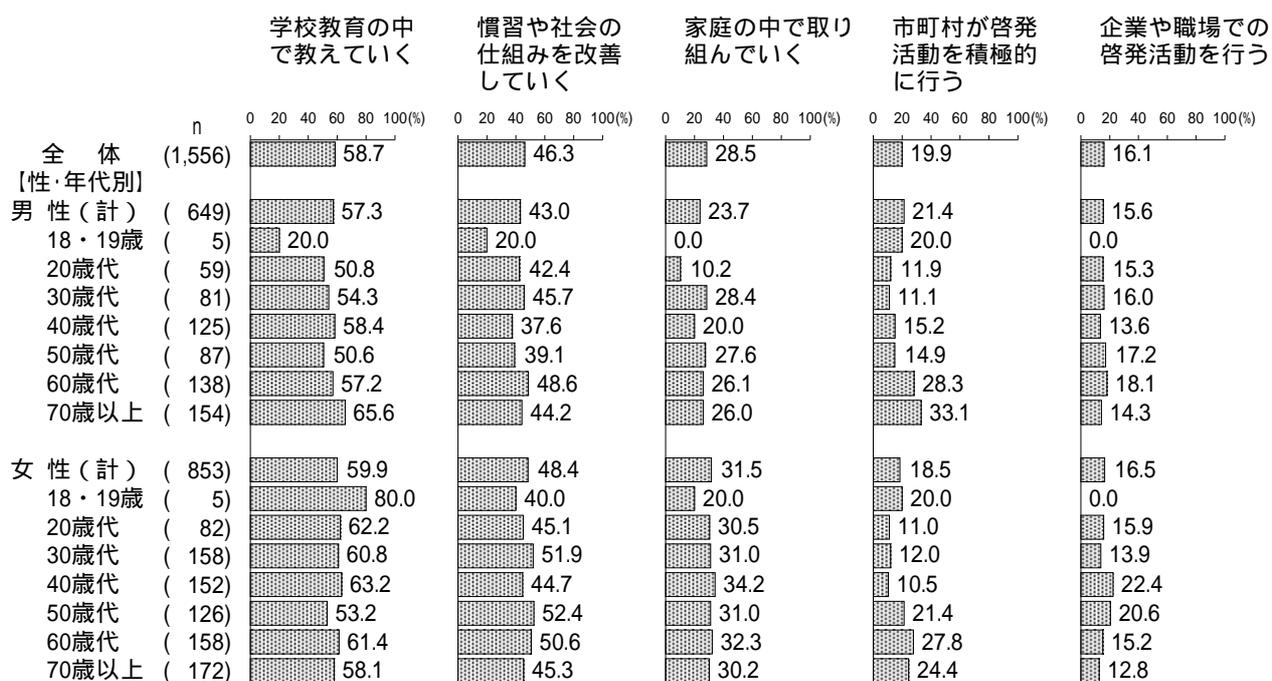
(図表 6 - 6 - 2)

図表 6 - 6 - 2 時系列 - 人権意識を高めていくために必要な取組



上位5項目を性・年代別にみると、「学校教育の中で教えていく」は男性70歳以上で6割半ばと多くなっている。「慣習や社会の仕組みを改善していく」は女性の30歳代、50歳代、60歳代で5割台と多くなっている。「市町村が啓発活動を積極的に行う」は男性70歳以上で3割を超えて多くなっている。(図表6-6-3)

図表6-6-3 性・年代別(上位5項目) - 人権意識を高めるために必要な取組



(7) 市民活動への参加意向

「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が28.6%

問45 あなたは、市民活動に参加したいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

図表6-7-1



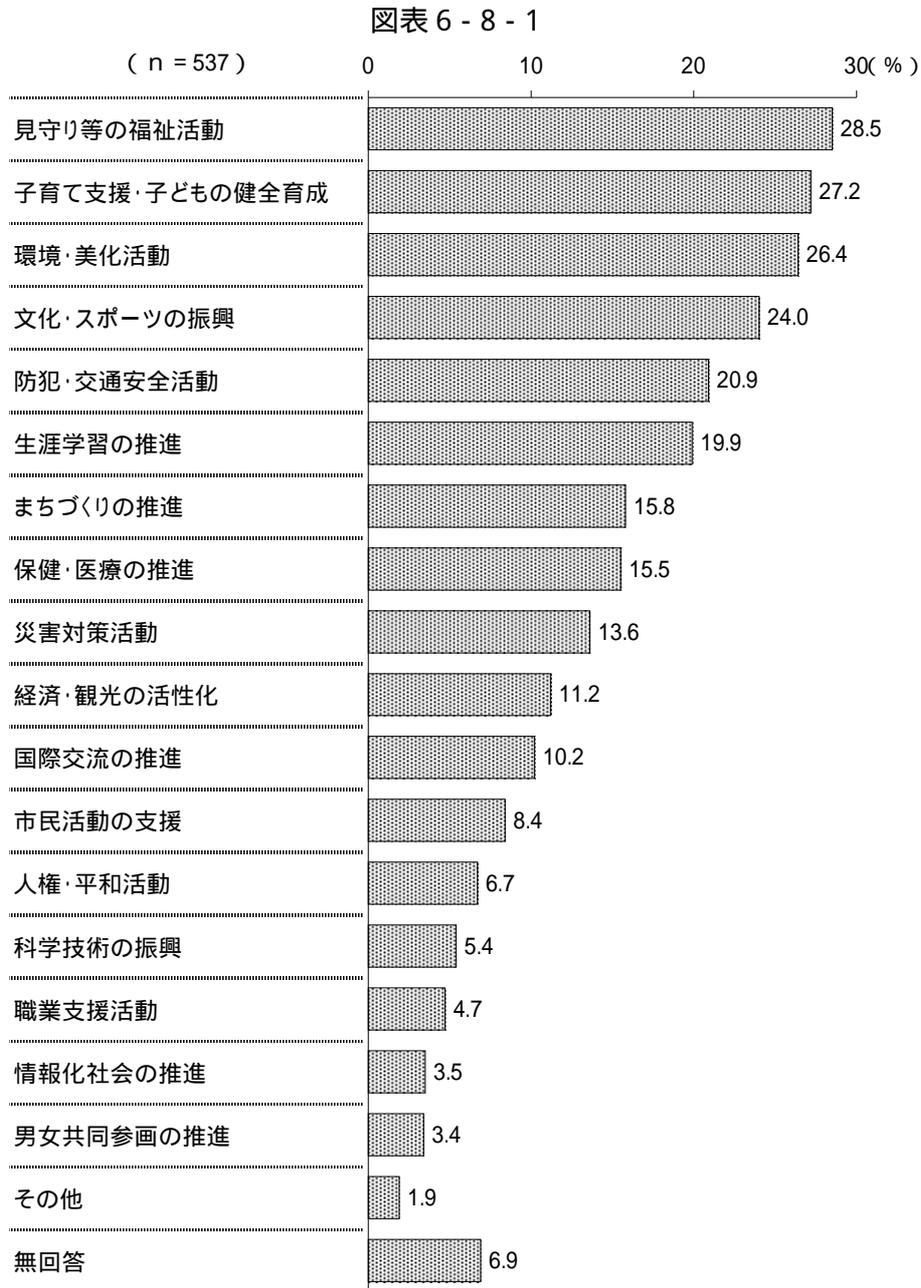
市民活動への参加意向をたずねたところ、「現在、参加している」(5.9%)は1割未満、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」(28.6%)が3割近くとなっている。一方、「参加したいとは思わない」(32.1%)は3割を超えている。(図表6-7-1)

(8) 参加したい市民活動の分野

「見守り等の福祉活動」が28.5%、「子育て支援・子どもの健全育成」が27.2%

問45 で「現在、参加している」「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と答えた方におたずねします。

問45 あなたが参加している、または参加したいと思う市民活動の分野を選んでください。
(はいくつでも)



問45 で「現在、参加している」「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と答えた人(537人)に、参加している、または参加したい市民活動の分野をたずねたところ、「見守り等の福祉活動」(28.5%)と「子育て支援・子どもの健全育成」(27.2%)が3割近くで多くなっている。以下、「環境・美化活動」(26.4%)、「文化・スポーツの振興」(24.0%)などの順となっている。(図表6-8-1)

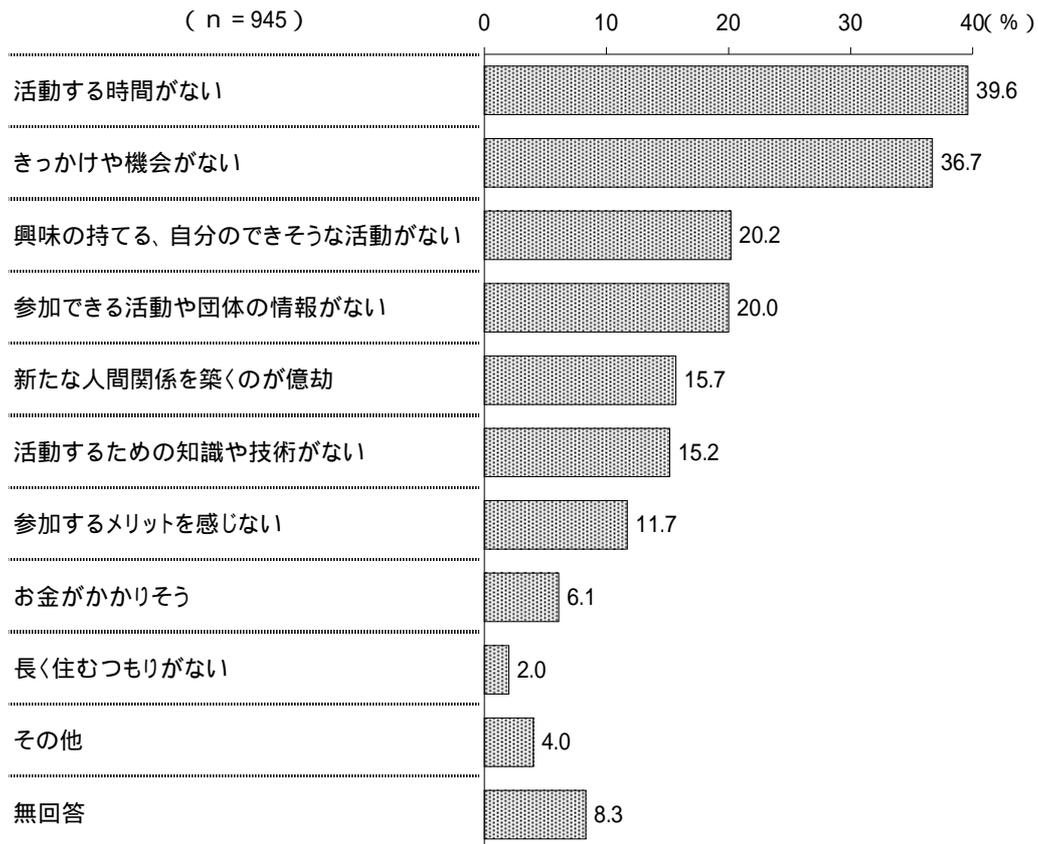
(9) 市民活動に参加していない、参加したいと思わない理由

「活動する時間がない」が39.6%

問45 で「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」「参加したいとは思わない」と答えた方におたずねします。

問45 参加していない、または参加したいと思わない理由としてあてはまるものを、次の中から選んでください。(はいくつでも)

図表 6 - 9 - 1



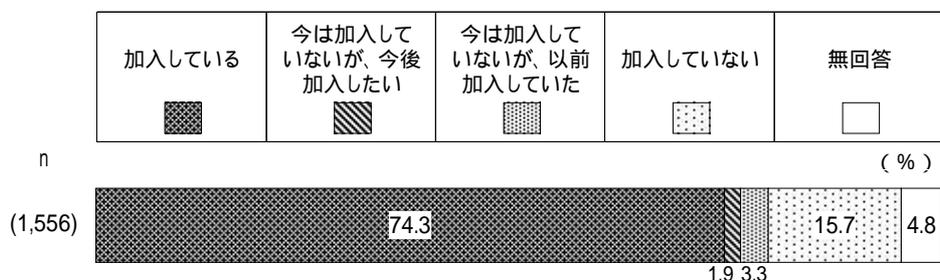
問45 で「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」「参加したいとは思わない」と答えた人(945人)に、参加していない、または参加したいと思わない理由をたずねたところ、「活動する時間がない」(39.6%)が4割で最も多くなっている。以下、「きっかけや機会がない」(36.7%)、「興味の持てる、自分のできそうな活動がない」(20.2%)、「参加できる活動や団体の情報がない」(20.0%)などの順となっている。(図表 6 - 9 - 1)

(10) 自治会への加入の有無

「加入している」が74.3%

問46 自治会への加入の有無についてお伺いします。次の中から1つだけ選んでください。
(は1つ)

図表 6 -10- 1

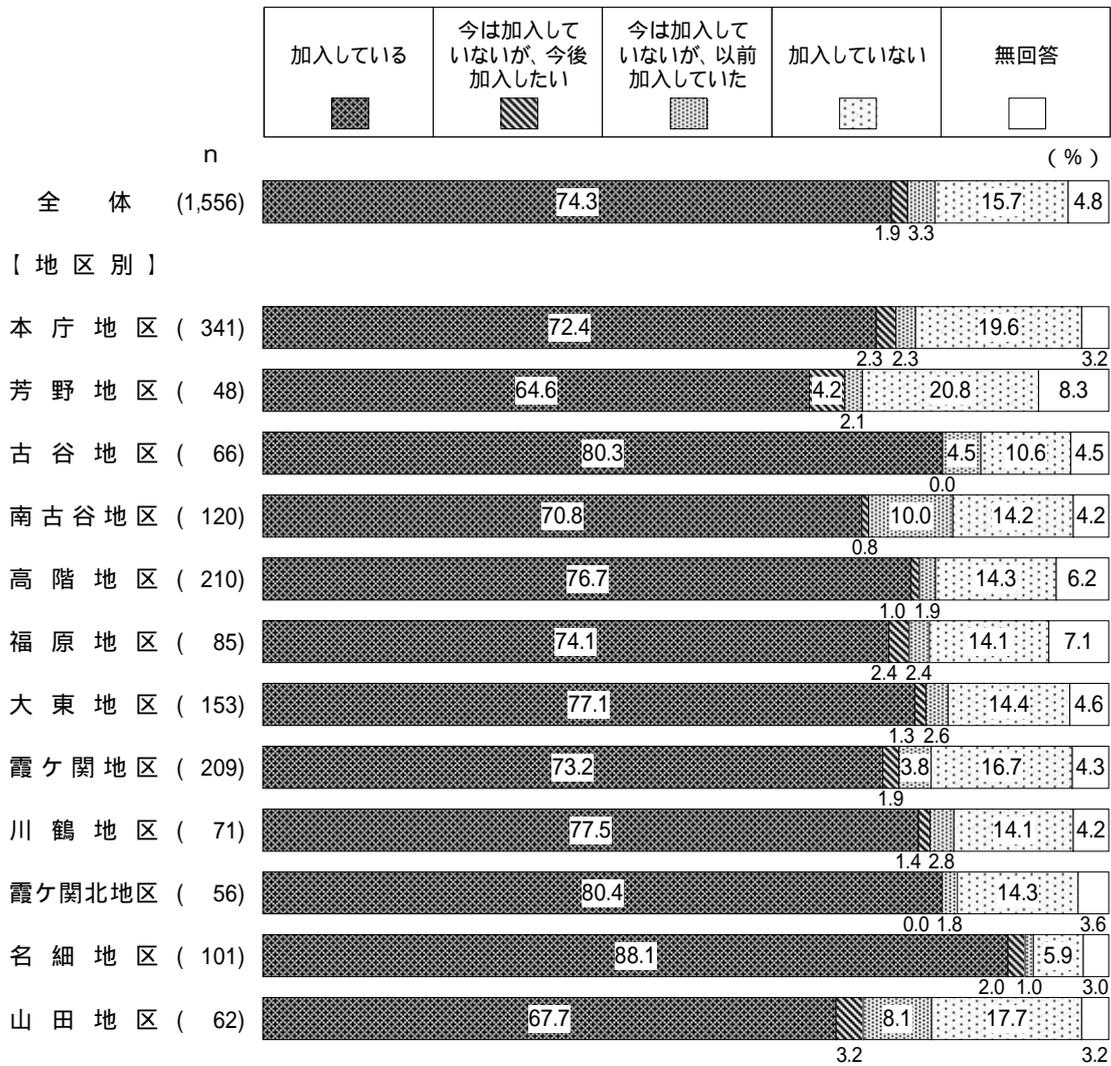


自治会への加入の有無についてたずねたところ、「加入している」(74.3%)が7割半ばで最も多くなっている。「今は加入していないが、今後加入したい」(1.9%)と「今は加入していないが、以前加入していた」(3.3%)はわずかとなっており、「加入していない」(15.7%)は1割半ばとなっている。(図表 6 -10- 1)

地区別にみると、「加入している」は名細地区で9割近く、霞ヶ関北地区と古谷地区で8割と多くなっている。一方、「加入していない」は芳野地区と本庁地区で約2割となっている。

(図表6-10-2)

図表6-10-2 地区別 - 自治会への加入の有無



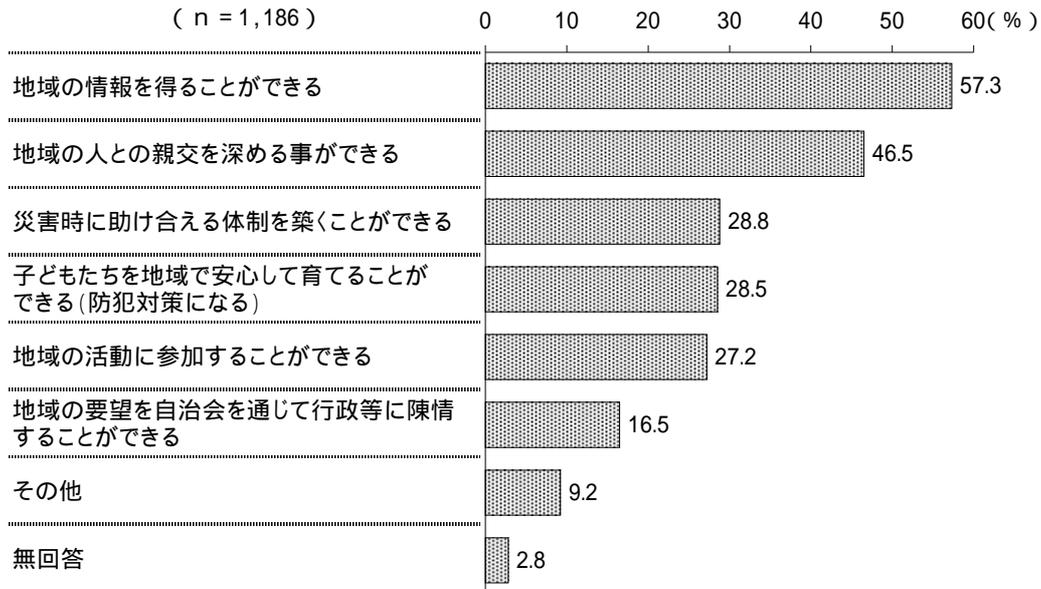
(11) 自治会に加入していて良かった、加入したいと思う理由

「地域の情報を得ることができる」が57.3%

問46 で「加入している」「今は加入していないが、今後加入したい」と答えた方におたずねします。

問46 あなたが自治会に加入していて良かった、または加入したいと思う理由としてあてはまるものを、次の中から選んでください。(はいくつでも)

図表 6 -11- 1



問46 で「加入している」「今は加入していないが、今後加入したい」と答えた人(1,186人)に、加入していて良かった、または加入したいと思う理由をたずねたところ、「地域の情報を得ることができる」(57.3%)が6割近くで最も多くなっている。以下、「地域の人との親交を深める事ができる」(46.5%)、「災害時に助け合える体制を築くことができる」(28.8%)、「子どもたちを地域で安心して育てることができる(防犯対策になる)」(28.5%)などの順となっている。

(図表 6 -11- 1)

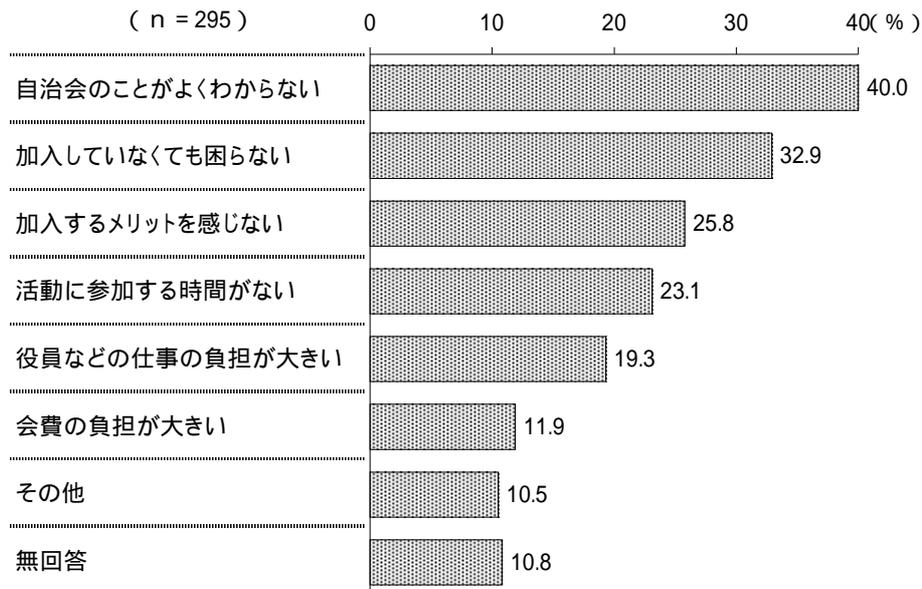
(12) 自治会に加入していない、加入したいと思わない理由

「自治会のことがよくわからない」が40.0%

問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた方におたずねします。

問46 あなたが自治会に加入していない、または加入したいと思わない理由としてあてはまるものを、次の中から選んでください。(はいくつでも)

図表 6 -12- 1



問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた人(295人)に、加入していない、または加入したいと思わない理由をたずねたところ、「自治会のことがよくわからない」(40.0%)が4割で最も多くなっている。以下、「加入していても困らない」(32.9%)、「加入するメリットを感じない」(25.8%)、「活動に参加する時間がない」(23.1%)などの順となっている。(図表 6 -12- 1)

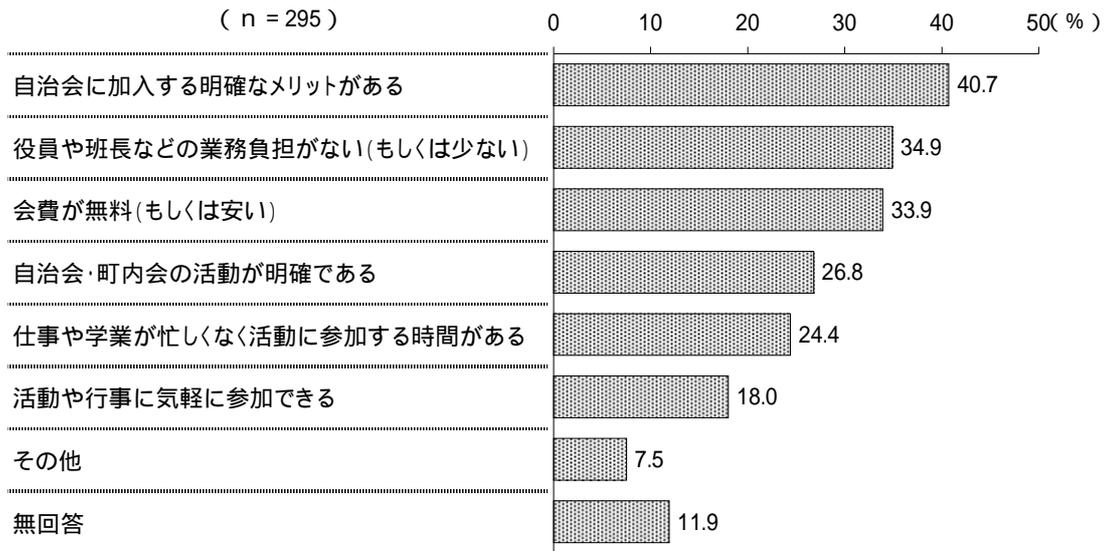
(13) 自治会への加入を考えてもいい、加入したいと思える条件

「自治会に加入する明確なメリットがある」が40.7%

問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた方におたずねします。

問46 あなたが自治会への加入を考えてもいい、または加入したいと思える条件としてあてはまるものを、次の中から選んでください。(はいいくつでも)

図表 6 -13- 1



問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた人(295人)に、加入を考えてもいい、または加入したいと思える条件をたずねたところ、「自治会に加入する明確なメリットがある」(40.7%)が約4割で最も多くなっている。以下、「役員や班長などの業務負担がない(もしくは少ない)」(34.9%)、「会費が無料(もしくは安い)」(33.9%)、「自治会・町内会の活動が明確である」(26.8%)などの順となっている。(図表 6 -13- 1)

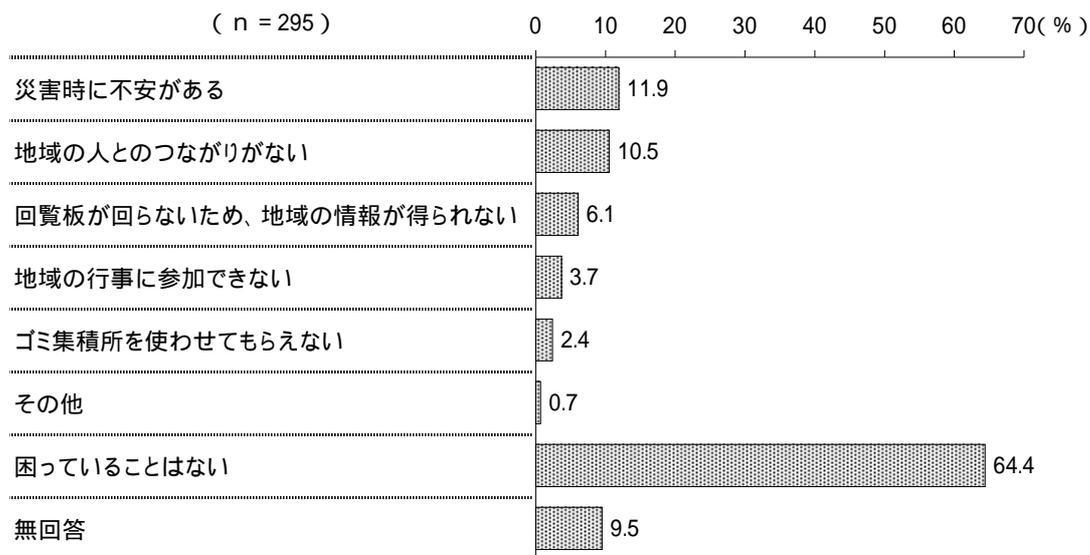
(14) 自治会に加入していないことで困っていること

「災害時に不安がある」が11.9%

問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた方におたずねします。

問46 自治会に加入していないことで、困っていることとしてあてはまるものを、次の中から選んでください。(はいいくつでも)

図表 6-14-1



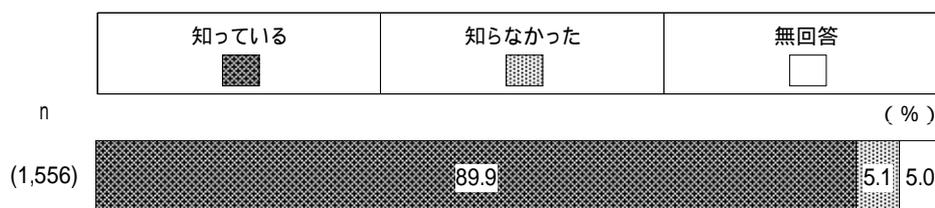
問46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と答えた人(295人)に、加入していないことで困っていることをたずねたところ、「災害時に不安がある」(11.9%)が1割を超えて最も多くなっている。以下、「地域の人とのつながりがない」(10.5%)、「回覧板が回らないため、地域の情報が得られない」(6.1%)などの順となっている。一方、「困っていることはない」(64.4%)は6割半ばとなっている。(図表 6-14-1)

(15) 市民センター・連絡所での手続きの認知度

「知っている」が89.9%

問47 住民票や戸籍などの証明書の取得、印鑑の登録、また住所変更（転入・転出など）や戸籍の届出（婚姻・出生など）は、市役所本庁舎以外にも、各市民センター（旧出張所）・連絡所でも手続きができることをご存知ですか。（ は1つ）

図表 6 -15- 1



市民センター・連絡所での手続きの認知度をたずねたところ、「知っている」(89.9%)が9割、「知らなかった」(5.1%)は1割未満となっている。(図表 6 -15- 1)